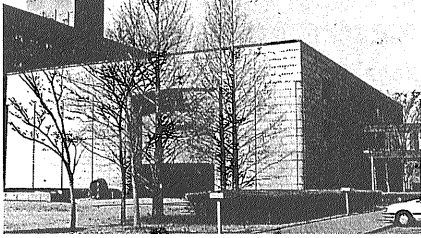


## 地質標本館だより



No. 44

恒例の「夏休み地球何でも相談」が8月23日に開かれました。今年は新しく企画された工業技術院筑波研究センター統一公開日に合わせたため、例年よりやや早めの開催となりました。

工技院統一公開は、傘下研究所の仕事を分かりやすく紹介し、一般の人達に広く科学技術に親しんでもらうことを目的に催されました。当日は支援事務所前に総合案内所や休憩所のテントを設営し、A・C地区との連絡や荒川沖駅一会場送迎のためのシャトルバスを運行するなど、主催者側にはかなりリキが入っていたようです。天候にも恵まれ、来場者は延べ7,000名に達したと聞いています。

地質調査所では、玄関ホールでの新刊地質図類の展示・解説、標本館での地学相談、化石クリーニング、特別展示「熱水金鉱床」を出し物としました。地質図展示に264人、標本館には1,000人が入りました。標本館の一日の入館者数としては過去最高で、初めて盲導犬の入館もありました。以下に標本館での様子を紹介してみましょう。

### 夏休み地球何でも相談

例年のように、小中学生による夏休みに採集した岩石・鉱物・化石の鑑定が主体でしたが、大人だけの相談がけっこう持ち込まれたのが今年の特徴といえるでしょう。夏休みに海外旅行をする子供達が増えて、このところ外国の石を持ってくる例がポツポツ見受けられるようになってきました。今年もアメリカやエジプトの標本を持った小学生がいました。単に試料の鑑定だけではなく、それをもとにどのようなレポートを作ればよいかといった相談もありました。全部でほぼ昨年の倍の54件の相談を処理しましたが、ただなんとなく石を拾ってきただけのケースがあま



写真1 支援事務所前の芝生に設置されたテント村。総合案内所と休憩所の準備中。昼頃には来場者でごったがえしとなった。

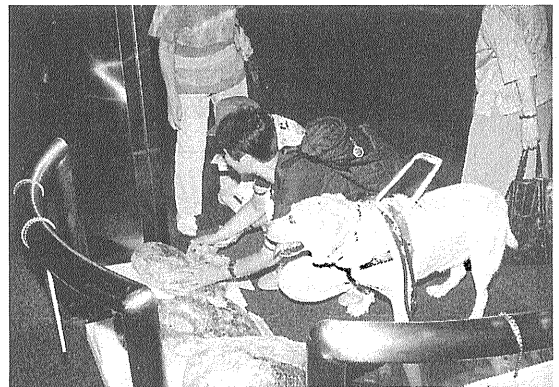


写真2 アンモナイトに触れる主人を見守る盲導犬



写真3 地球何でも相談に訪れた小さなお客さんと対応する館員

りに多いのは残念でした。もっと目的を持って石を集めるように指導することの方が大切ではないかと反省させられました。

また、今年は一方向的に相談を受け付けるだけでなく、石炭、水晶、メノウなどの試料の中から鉱物を選ばせるクイズを用意してみました。回答者には水晶、ザクロ石、黄鉄鉱などのお土産をあげ、なかなか好評でした。

### 植物化石クリーニング

すっかりお馴染みになった、塩原層の木の葉石から植物化石を見つけだして種を決める実習を、元所員の尾上 亨博士のご協力により今年も行うことができました。昨年は希望者が殺到してかなり混乱しましたが、今年はその教訓をいかして対応したことで、博物館実習に来ていた学生さん達の協力とで、昨年を上回る190名もの希望者を比較的スムーズに捌くことができました。とはいえこの人数はもはや限界で、尾上さんはじめ関係者は嬉しい(?)悲鳴をあげていました。参加者には小学生や未就学児童も多く、親子でタガネを叩き、化石が出るたびにそこそこで歓声があがりました。中には小さな昆虫の化石を見つけた人もいて、尾上さんが悩む場面もありました。



写真4 鉱物探検クイズに挑戦する来館者

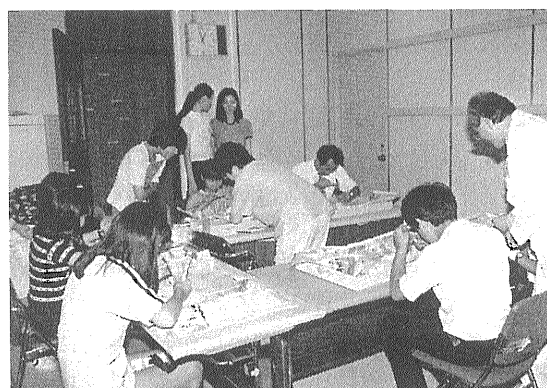


写真5 化石発見を体験する参加者

### 熱水性金鉱床

鉱物資源部青木正博課長によってまとめられた金鉱床のでき方が「マグマの恵み 熱水性金鉱床」として特別展示されました。

金をはじめ多くの重金属資源をもたらす熱水鉱床のなりたちを中央のパネルで説明し、熱水をマグマからの分化成分を多く含む酸性熱水系と、それが周囲の岩石との反応で中和された中性熱水系とに分けて、それぞれの特色と実例が左右のパネルに分かりやすくまとめられています。また、それぞれに産出する金の鉱石と特徴的な鉱物や岩石の見事な標本も合わせて展示してあります。

(遠藤祐二, 奥山(楠瀬)康子, 牧本 博)

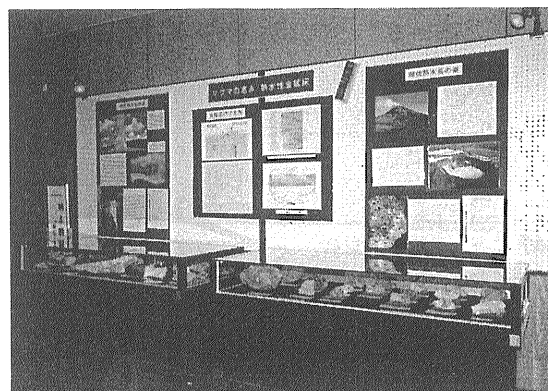


写真6 「マグマの恵み 熱水性金鉱床」の特別展示

**地質標本館は、第2・第4土曜日にも開館しています。**